

SNK第10期 2009年度 活動の記録

「私たちはSNK12年の歴史をSNKホームページにUPする」企画に取り組んでいます。ここに編纂するSNKの歴史は、シニアネットの萌芽時代から組織されて以降、今日までの歴史を取り上げています。皆さんの声を編集局にお寄せください。参考：広報 Vol.20 2008.10.22 発行：特集 SNK10年史（資料等は事務局記録、会員諸氏の写真他を活用しています）

2009 トピック

MEM ふるさとの川	小川 久 著、小川 久 編集、小川 久 撮影。まとめるエピソードをまとめることに努めた。PDF形式で公開。
郷土の先達 喜木和泉と田中久重	伊藤 久 編、喜木和泉、田中久重、共に幕末に活躍した郷土の先達。PDF形式で公開。
初手物語	伊藤 久 編、久留米の国分に住んでた方で激動の時代、激動の初手物語。
古代九州物語	伊藤 久 編、九州にも素晴らしい歴史がたくさんあります。
秋月家から見た九州の歴史	石井秀夫・伊藤久 共編、秋月家は古代から名の知れた名家で、九州の歴史を記述しています。
久留米ん昔話	松田康夫 著、昭和53年に発行された「久留米お話し」です。
田中吉政公とその時代	半田隆夫 著、筑後藩主として入国した藩か99年です。
高良山物語	金富一 著、昭和9年発行。時代から昭和初期までの高良大社。
日向神紀行	恒屋一 著、昭和15年発行。大正末期や戦前の紀行文。格闘家 山陽 著、文政元年(1818)筑後川を舟で下った山陽が、南北
筑後川を下る	井手二郎 著、医学博士で郷土史家の井手先生が永年の研究をまとめた。久留米市立井手小学校父母教師会 編
久留米城の防禦体制	藤 裕長 著、文政5年(1825)発行された奥八女紀行文。転入して久留米市立井手小学校父母教師会 編
山土産	

- 2009年
- 4.26 ちっごアミーゴス「キッズフェスタ」に出演：石橋文化センター
 - 6.07 荒木農園収穫祭、3/28 桜花見会
 - 6.08 にこにこステップ運動前期基礎コース開始、10/16 後期、10/25 交流会
 - 6.12 「デジタルアーカイブ」が国立国会図書館のデータベースにリンク
 - 7.03 第二期デジタルアーカイブ研究会発足
 - 7.17 職場対抗のど自慢大会に参加
 - 8.04 「水の祭典・総踊り」に参加
 - 8.15 「筑後川流し灯籠」に協賛参加
 - 10.08 うきは市PC出前講座(第1日) (10/8～11/26)
 - 10.17 第9回筑後川芋煮会開催、7/21 そうめん流し
 - 10.18 久留米大学学園祭「ユニバ広場」に参加
 - 10.23 「シニアネットフォーラム in 九州」に参加
 - 11.28 「無量寺コンサート」にちっごアミーゴス、英語で歌う会が参加
 - 12.01 第1回久留米ん町探検「大石町～鳥飼ウオーク」、3/14「寺町ウオーク」
- 2010
- 2.20 「団塊世代シニアの地域デビュー応援講座」に協賛参加
 - 3.16 つばきイベントに協賛「つばき写真展」開催、3/22「つばきウオーキング」
 - 3.30 特別講座「最近の中国事情」(講師青木)茶話会開催

2009年7月3日、デジタルアーカイブは電子図書館として国立国会図書館のデータベースにリンクされる。この伝統を引き継いで第二次研究会（平岡清志）が発足、活動中。現在SNKホームページでは資料26本掲載
備考)第二次研究会、メンバー希望の方はリーダーもしくは事務局まで申し出てください。

2012 お知らせ

9月21日 にこにこステップ運動交流会

会場：久留米市民会館 2F 小ホール
 要旨：ステップ運動の普及と会員交流会

10月 筑後川うまかもんば食う会

会場：筑後川河川敷。
 要旨：豊かな川の流るるを背景に芋煮を楽しむ会

11月 秋の収穫祭

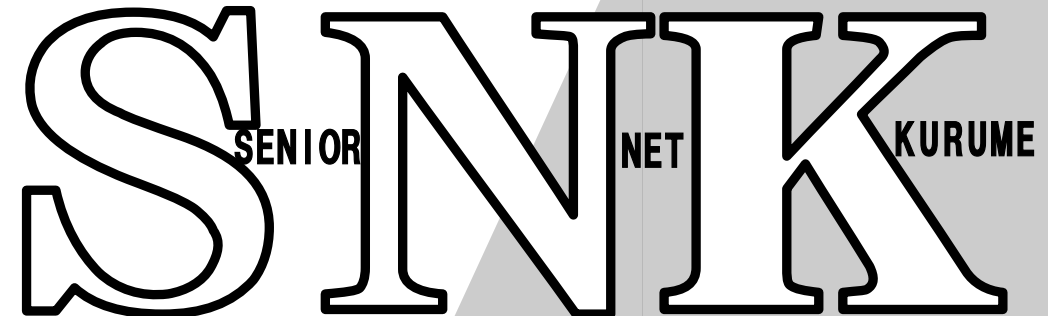
会場：荒木農園
 要旨：秋の収穫祭、収穫体験実習など(子ども)癒しの森公園：地域と世代を超えた交流会

※各イベント内容は事前のMLで確認して下さい。

(あとがき) エアコンの無い時代は裏庭に涼み台を持ち出して、星を眺めてのんびり時間を過ごした。四方山話は弾み、友人や知人の消息から畑や作物の出来不出来を話題とした。縁台将棋が始まり、大人の遊びを子どもたちは時間をかけて覚えた。マクワ瓜や西瓜が出ることもあり、線香花火を上げたり、興味の尽きない時間を過ごした。小さな涼み台に溢れるほどの話題を集め、充分すぎるコミュニケーションを楽しみ長い夜を過ごした。そんな昔、季節の風は季節ごとの色をつけて吹いていた。近年感じる寒い長い冬、遅い春、夏は暑くて長い、やがて短い秋が来る…どこかおかしいぞ地球 (武)



写真↑ 久留米祭り総踊り8月4日はギンギンの真夏日、夏祭り・水の祭典にSNKは今夏70名参加。市内の明治通りを隊列を組んでパレードする、パフォーマンスを讀んで『あんたが大賞』受賞は「さざえさん(丸山まつみさん)」、8月5日は筑後川花火大会



編集・発行
 NPOシニアネット久留米
 理事長 小島 紀夫
 久留米市荘島町13-1
 TEL 0942-46-2277

HAPPY という風が吹いている

オリンピックは政治を離れたスポーツの祭典、TVで見る競技はどこまでも明るい。リオバトンタッチしてロンドン大会は終わった。

スポーツはルールを守り貧富も巧緻もごまかしてもない…はずの世界である。訓練された肉体が技術を競うのだから、競技の真髄に迫り観る人に大きな感動をもたらした。オリンピックは勝者の名誉を称え、「金・銀・銅」という賞を与えた。

オリンピック最終競技の男子マラソンはケニヤ勢(キルイ、キプサング)を抑えてウガンダのキプロッチが2時間8分の記録で優勝した。アフリカの小国は新しい英雄を生んだ。

男子100m・200mの優勝はウサインボルト、母国はアメリカとキューバの影響を受けるカリブ海に浮かぶ小国ジャマイカである。

貧しい小国の若者たちはスーパースターを目指す。彼らは身体を資本と考えスポーツに秀でる毎日を生きている、…とはTVによる紹介。

貧しい国は文明に浴した時から長い歴史で植民地を経験した。属領の統治を受けてきた貧しい国も、やがて富を蓄え必然的に階級社会となっていく。国際化が顕著な時代、一国にとどまらない名誉の生かし方、人は富のあるほうへ嗅覚を肥大させていく。国の繁栄を願い、豊かな生活を夢見て若者たちはスポーツに賭ける。

貧しい国は多い、貧しい人も多い。だが不幸という訳ではない。むしろ、貧しさがなせる小さな家、みんなで手分けして分担する仕事、無いものが多く融通し合ういろいろ、お金もモノも…となると身体を使ってこまごまと、ハングリーを生きていくこととなる。

世界に起こる問題は経済力が解決することは多い。大国は、文明に遅れた貧しい小国を経済という援助で介入する。

豊かになれば豊かさの上にさらに求めるモノが増えてくるのが人間社会である。生きるために金メダルを得た若者は、自己の頑健な身体とトレーニング出来る社会に感謝していることだろう、と思えてくる。

『幸せってなんだ』とSNK:MLで問いかけがありひとしきり幸福論が語られたことがある。(以下A~Fは筆者による要約)

- A・心理的なものだから、心で贅沢を避けること…不満なし、豊かな気持ちとなれます。
- B・人の感性で感じるもの、悩みや借金が無く、率直な人間関係を築いているから幸です。
- C・心の持ち方次第、生きてることが幸
- D・文明から隔絶された土地に住む人は、幸と不幸の概念もない。有るのは運と不運。
- E・チルチルミチルの求めた青い鳥、幸はその人の傍にある。：メーテルリンク
- F・辛いという字がある。もう少しで幸せになれるような字である。：星野富広

かつて日本は高度経済成長を成し遂げ、国民皆中流を意識するまでに財の面で平等感が支配した時代があった。単なる幻想にすぎなかったが、好景気の波にのり、国民はひろく所得倍増の御利益に預かった。作れば売れるというモノづくり日本の一時代を作った。シニアの私たちが通ってきた道だ。

そして現在、田舎には若者がいなくなり、田んぼが疲弊し、都市集中の日本となった。モノを求めすぎた結果であり、便利を幸と曲解したのが原因だろう

資源のない国が国際的に競争し生きていくには、固有の文化・技術度の高い情報を作ることである。少子高齢化が進みハングリーを忘れた国のシニアは“Happy”の風を起こす人へ、いつか“Happy”という風が吹く日を待っている。(広報紙編集長 一ノ瀬尚文)

815 ボランティア

特集 シニアは子どもたちを見守っている・・・(2)

流し灯籠 未来のおとなたちへ

御先祖供養の行事である精霊流しは、孟蘭盆の15日に行われています。儀式的な習慣として供物を流す精霊流しを、「美しい筑後川を汚してはいけない」と供物の習慣から、水を汚さない材質の流し灯籠(薄板+紙)へ変更をお願いしました。地球環境を保護する、環境を汚してはいけない、地球を守ろう、という時代の声に応えたものです。



日本の各地で昔から行われている精霊流しは、河川の汚染にならない工夫を凝らして、材質は木と紙で作った灯籠を有料で販売して川に流す方法に代えて、それを翌日回収するというやり方です。お供え物は川に流さないよう、係員が受け取って処分する方法です。8月15日の夕刻、筑後川には毎年3千個以上の灯籠が流され、推定では約1万人程度の皆さんが参加される大イベントとなっています。この行事を長く続けてきた京町「流し灯籠保存会」の方だけでは対処できなくなり、SNKでは2005年から会員に呼びかけて、ボランティア応援しています。

(理事 島井新一郎)

筑後地方は昔も今もご先祖様を大切にする土地柄、流し灯籠に熱心です。子ども連れの若い人たちは、お盆の行事を花火遊びをして家族で楽しんでいたし、新しい生活感が育っているようです。

(写真班リーダー 副理事長 中丸哲子)



筑後川での流し灯籠についてボランティア応援スケジュール。
会員のボランティア参加により実施。⇒ 応援参加者約30名

場所 水天宮下 河川敷

時間 8月15日:朝6時 会場設置 約3時間

:16~22時 本番(灯籠組み立て販売、禁止精霊舟の引取り)

16日:朝6時 灯籠の回収、川清掃、ゴミ片付け 約5時間

写真↑、夕刻となり灯籠(精霊舟)が川面を漂いながら流れる、筑後川風物詩
↓、灯籠500円也を買い求める人のため灯籠を組み立て販売:3000個
→、翌日の灯籠の回収作業、川清掃、拾い集めたゴミ(コンテナ一杯)
川面に浮かぶ灯籠、不用意に流されたゴミも併せて拾い集めていく



ノヴァ・スポーツプラザ
福岡県久留米市天神町154
電話 35-8282
より元気に、より笑顔に

営業品目
行燈舟 会旗舟 精霊舟 日笠舟 (420円)
神盛 おせち おにぎり 他
★ 配達いたします。
くるめランチサービス 久留米市瀬下町279
35-2625

